

武蔵野市第五期長期計画・調整計画

市民ワークショップⅤ


(平成28年3月6日開催)

報告書

武蔵野市

目 次

I	ワークショップ実施概要報告	
1	目的	4
2	位置づけ	4
3	事業概要	5
4	実施方法	5
5	当日の進行	6
6	ワークショップで各グループが設定した課題一覧	7
II	ワークショップ討議結果報告	
1	発表用シート（グループ別）	10
2	ワークショップの状況と評価	16
	資 料	
1	当日資料	
	(1) 当日の流れについて	22
	(2) 市長による調整計画の紹介	23
	(3) これまでのワークショップの意見と調整計画への反映について	27
2	参加者のアンケート集計結果	30
3	その他資料	
	(1) ワークショップのご案内	40
	(2) 承諾書	42
	(3) アンケート（参加者用）	43
	(4) 見学のルール	45



I ワークショップ実施概要報告

1 目的

武蔵野市では、昭和46年の第一期長期計画から、策定委員会を中心とし、市民参加・議員参加・職員参加によるいわゆる「武蔵野市方式」により策定を行ってきた。第五期長期計画・調整計画（以下「調整計画」という。）の策定過程においても、この「武蔵野市方式」を継承し、時代に即応した市民参加の手法を取り入れるなど積極的に市民意見を求めてきた。

そうした市民参加の一環として、市政に関心や参加機会のなかった市民から多様な意見をもらうとともに、今後の市政参加のきっかけとなることを目的に、これまで計4回にわたり無作為抽出市民ワークショップを実施してきた。

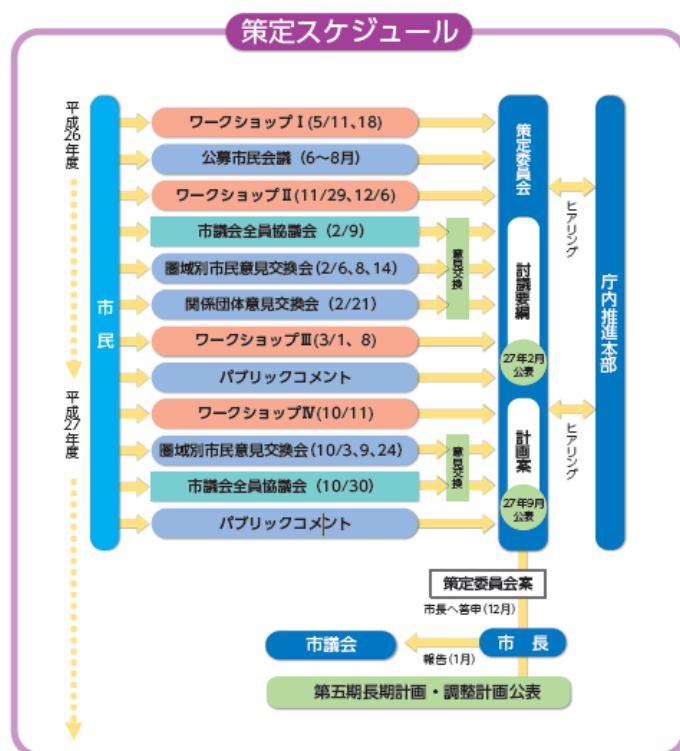
今回のワークショップは、調整計画策定に伴い、これまで無作為抽出市民ワークショップに参加し、貴重な意見をいただいた市民に対し調整計画の周知を図るとともに、さらなる市政参加を促すことを目的として実施するものである。

2 位置づけ

調整計画の策定にあたっては、平成26年5月に実施した第1回無作為抽出市民ワークショップを皮切りに、「公募市民会議」、「策定委員会」を設置するとともに、「圏域別市民意見交換会」、「関係団体意見交換会」など市民との意見交換や、市議会議員との意見交換の機会を設けてきた。それらの機会を得た意見等を踏まえ、平成27年12月に策定委員会から市長に答申がなされ、平成28年1月に市として調整計画を策定した。

5回目にあたる今回のワークショップは、これまでの無作為抽出市民ワークショップの総括及び今後の調整計画の実行に向けた取り組みの1つとして位置づけるものである。

なお調整計画の策定スケジュールの全体像は下表のとおりである。



3 事業概要

- (1) 日 時 平成 28 年 3 月 6 日 (日) 13 : 00 ~ 17 : 00
- (2) 会 場 武蔵野市役所西棟 8 階 811 会議室
- (3) 対象者 第 1 回から第 4 回までの無作為抽出市民ワークショップ参加者 256 人のうち、参加を承諾した者
- (4) 参加承諾者数 91 人
- (5) 参加者数 69 人
(参加回数内訳 : 5 回 10 人、4 回 7 人、3 回 17 人、2 回 35 人)
- (6) 実施内容 ①市長から調整計画の紹介
②「自治と連携によるまちづくり」をテーマにしたワークショップ
- (7) 謝 礼 4,000 円 (クオカード)
- (8) アンケート回収数 参加者アンケート 68 件
- (9) 託児数 6 人

4 実施方法

- (1) 参加者は受付でくじを引き、テーブルを決定
1 グループ当たり 5 ~ 6 人で全 12 テーブルに分かれる
(途中参加がいたため、最終的に 1 グループのみ 7 人となった。)
- (2) 市長から
 - ①調整計画の概要についての説明
 - ②これまでのワークショップの意見がどのように調整計画に反映されたかの説明
 - ③平成 28 年度施政方針についての説明
 - ④テーマ「自治と連携によるまちづくり」についての説明と問題提起
- (3) テーマについてワークショップ (グループ討論) の開始
- (4) 職員が各テーブルにファシリテーターとして参加
- (5) 第 1 ラウンドは、課題出し、課題設定、現状と問題の分析を実施
第 2 ラウンドは、今後の方向性の共有と発表用シートへのまとめを実施
(ワールドカフェ方式 (メンバー交代) はとらなかった。)
- (6) グループごとに発表
発表内容について市長からのコメント
(今回は投票は行わなかった。)


5 当日の進行

時刻	所要時間(分)	内容	具体的な動き
12:30～		開場・受付開始	受付時にくじを引いてもらい、座るテーブルを決定
13:00～13:03	3	オープニング 導入・説明	1日の流れ説明
13:03～13:45	42	第五期長期計画・ 調整計画の紹介	市長から第五期長期計画・調整計画の紹介 本日議論するテーマ「自治と連携によるまちづくり」について説明
13:45～13:51	6	話し合いについての 説明	ワークショップの進め方について説明 職員もファシリテーターとして各テーブルに入る
13:51～14:03	12	自己紹介 個人作業	自己紹介(7分) テーマについて課題出し(付せん書き)(5分)
14:03～14:43	40	課題の共有 意見の発散	<第1ラウンド> 話し合い(自由討議)スタート(&付せん書き) ①課題出し(20分) ②現状や問題について話し合う(20分)
14:43～14:53	10	休憩	
14:53～15:45	52	結論を出す	<第2ラウンド> ①解決に向けた方向性を共有する(30分) ②発表用シートの作成(10分) ③発表者決め(5分)
15:45～15:55	10	休憩	(発表の準備)
15:55～16:55	60	意見発表	グループごとに意見発表(1グループ3分) 市長からコメント
16:55～17:00	5	クロージング	市長から閉会の挨拶
17:00		終了	①アンケート記入 ②テーブルにて受領書と引換に謝礼のクオカード手渡し

※ () 内の時間は目安として設定したものの

6 ワークショップで各グループが設定した課題一覧

第1G	・コミセンの有効活用
第2G	・若者が現実に住めるまち
第3G	・高齢者の活躍
第4G	・世代を越えた市政・コミュニティ活動への参加仕組みづくり
第5G	・若い人を呼び込む施策
第6G	・生産人口の維持・増加
第7G	・真の地域生活の確立、自治体の連携について
第8G	・子育て支援問題
第9G	・子育ての町武蔵野市ー待機児童ゼロ計画ー
第10G	・より住み良い町づくりをめざして～特に若い人の為に～
第11G	・地域リハビリテーション
第12G	・地域のコミュニケーションを高める



Ⅱ ワークショップ討議結果報告

1 発表用シート（グループ別）

グループ No. 1	メンバー 仙石・山田・須田・石丸・小日向・松本・福重
（大切にしていきたいこと） 課題だと思ふこと	設定した課題（タイトル） コミセンの有効活用
	①利用者が固体化 ②施設の場所貸しに限定 ③利用者の「自己完結」にとどまる→豊かな街づくりにつながっていない
解決に向けた方向性	①運営主体のプロポーザルの導入 ②幅広い利用者が集まる企画 ・特に男性の参加促進（なぜ参加しない？） ・美味しいコーヒー自販機 ③市民の声を吸い上げ、市に伝える役割 ・市民の意見を取りにいく
その他	元気な高齢者の活躍 ボランティアで地域の活性化を!!

グループ No. 2	メンバー カワハラ・みや川・兼子・今野・いずみ
（大切にしていきたいこと） 課題だと思ふこと	設定した課題（タイトル） 若者が現実に住めるまち
	1、住む場所（居住環境）の確保 2、保育所の増加（切望！） 3、空き家が多い 4、若年層、働く層も参加できる交流の場
方向性 解決に向けた	・空き家の効率的活用（シェアハウス化など） ・予算に優先順位をつける（市民も参加） ・コミセンの活用 ・保育士への賃金補助 ・学校の空き教室の活用 ・若年層への家賃補助
その他	・（文化）アニメ・サブカルで教室活用 ・三鷹駅北口を吉祥につぐ「ハブ」に！ ・タウンミーティング論客（ゲスト）に地域の有名人（大学教授・タレント）

グループ No. 3	メンバー 小松、アシダ、ヨシダ、なす、工藤
(大切にしていきたいこと) 課題だと思われること	設定した課題 (タイトル) 高齢者の活躍
	受益者負担ただし若者 (弱い者) に優しく市内施設の稼働率の見直し → (無駄を除く、利用料を取る) 健康なお年寄り歩きましょう。
解決に向けた 方向性	適正な利用料を取る (その理解を得る) 財政破綻に危機感を持つ (先を見据える) →今から持つことで対応していける！ →各施設に適切な人材配置 (ボランティア含め)
その他	

グループ No. 4	メンバー 山谷・おちあい・山川・中村・東・上野
(大切にしていきたいこと) 課題だと思われること	設定した課題 (タイトル) 世代を越えた市政・コミュニティ活動への参加仕組みづくり
	各世代から市政に参加してもらう為には メンバーの固定化を防ぐには 世代ごと必要なサポートの見える化
解決に向けた 方向性	各世代に届く周知の方法 各世代に公募・登録をしてもらう 参加者への特典 (ムーブスパス・ポイント制・ひまわりママ無料駐輪場パス 参加日当日のデイサービス、移動手段、託児所、手話等
その他	ツイッター LINE チラシ 市報 ホームページ 企業の広報誌 (スマホ)

グループ No. 5	メンバー 大塚、星野、大藤、山田、小山、手塚
(大切にしていきたいこと) 課題だと思われること	設定した課題 (タイトル) 若い人を呼び込む施策
	本当かな人口増? 生産年齢人口の減少 高齢化を遅らそう 予算を老人から若い人へシフト 魅力的なまちづくり (自転車対策、吉祥寺駅南口再開発、公会堂リフォーム、子どもの遊び場等)
解決に向けた 方向性	子育て世代への支援・優遇策 (電動アシスト自転車無料貸し出し、市営住宅への優先入居、駐輪場の無料化等)、若い人に魅力的なコミセン運営、空き家対策 (シニアと若い人の交流)、若者 (中学以上) を中心としたワークショップの開催、ムーブスの乗りつぎ無料化
その他	助成を浸透マスから雨水タンクへシフト 災害時の道路確保

グループ No. 6	メンバー 武内、村井、藤谷、古田、笥
(大切にしていきたいこと) 課題だと思われること	設定した課題 (タイトル) 生産人口の維持・増加
	<ul style="list-style-type: none"> ・若年・中年層 (とも働き世代) の働きやすい環境づくり ・元気なシニア層の活躍できる (働きつづけられる) 環境づくり ・障害者が働ける環境づくり
解決に向けた 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家、空き地を活用した保育施設の整備と保育士の待遇改善、協力できるシニア層の確保等による保育施設創設 ・色々なスキルを持ったシニア層、障害者の発掘、活用
その他	

グループ No. 7	メンバー 宮本さん、やさきさん、さとうさん、溝渕さん、沼田さん、百瀬さん
(大切にしていきたいこと) 課題だと思ふこと	設定した課題 (タイトル)
	①真の地域生活の確立 ②自治体の連携について
解決に向けた 方向性	①近隣→町会→コミセン 安全な社会の確立 (災害・治安 — 防犯・交通対策) ②近隣自治体との連携の見直し及び近隣以外の国内外の連携の見直し
その他	

グループ No. 8	メンバー 鈴木さん、林さん、榎本さん、小林さん、スノウチさん、木原さん
(大切にしていきたいこと) 課題だと思ふこと	設定した課題 (タイトル) 子育て支援問題
	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的に「支え手」を維持 (増加) しなくては。 ・高くて住めない。(子育て世帯、特にシングル子育て) ・色々な問題がこの問題に関連している。
解決に向けた 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンの活動をもっと宣伝する。 ・もっと市民活動を応援する。 ・若い人をもっとコミセン活動に参加してもらおう。(学生アルバイトとか) ・コミセン活動にもっと ICT (スマホなど) 活用を。 ・お祭りとか人が集まる場所でコミセンの宣伝やイベントを!
その他	

グループ No. 9	メンバー ジョニー・奥間・小林・秋本・柿原
(大切にしていきたいこと) 課題だと思われること	設定した課題 (タイトル) 子育ての町武蔵野市一待機児童ゼロ計画一
	子育てのため、仕事をやめざるを得ない。→ あってはならない。許せない。
解決に向けた 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをあずかる・・・自治体の確約 ・数値目標の設定 “毎年 50 人ずつ、5 年以内に” ・保育士不足対策 ・有資格者を再び社会へ周辺自治体との連携、人、ものの交流 受け入れ融通
その他	

グループ No. 10	メンバー スナカワ、トウヤ、牧、岡井、木村、後藤
(大切にしていきたいこと) 課題だと思われること	設定した課題 (タイトル) より住み良い町づくりをめざして ～特に若い人の為に～
	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミセンのあり方 (役員) 2. 若い人の住み良い町 (子育て、住宅) 3. 地域との連がり (居場所作りコミセンの一角、空家の利用) 4. 安全な町 (自転車、道路、たばこ、防犯) 5. 高齢者の仕事
解決に向けた 方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1. 任期制採用 (役員) 2. 基盤整備 (グループ保育、家賃補助、待機児童) 3. 防災会の設立→町内会、子供会、地域の手助) 4. 自転車専用道路、路上喫煙の取締り 5. ボランティアのポイント制
その他	町内のコミュニティは、丁目単位のコミセン作りでゆるくつき合う。

グループ No. 11	メンバー アラカワ・てつ・鎌田・たかの・まきなえ
(大切にしていきたいこと) 課題だと思われること	設定した課題 (タイトル) 地域リハビリテーション
	地域資産の再構築ってことですよね？ 資産の把握 (コミセン、人、レモンキャブ、ムーバス、自宅の開放、公園、情報、図書館) (人)退職者、外国人、学生 <input type="checkbox"/> コミセン : 使い勝手悪い、移動手段がない 参加意欲 <input type="checkbox"/> 情報 : 得るのが難しい、ワンアクセス！→TV、リモコン
向性 解決に向けた方	市として、どのように情報を届けてくれる？ 人を利用 (活用) して、参加意欲を高めよう！ コミセンをもっと利用したい 情報：最も簡単に！ボタン一つで出来る
その他	情報を分類して分かりやすくプレゼンすることを目指してほしい

グループ No. 12	メンバー よの、野津、阿部、吉田、平賀、頼
(大切にしていきたいこと) 課題だと思われること	設定した課題 (タイトル) 地域のコミュニケーションを高める
	(防災・安全) (高齢化に向けて) ・地域の情報不足を感じる ・近隣住人のネットワークを強めたい ・陸の孤島にならない地域づくり ・共同住宅への対策が弱い
向性 解決に向けた方	各地域コミュニティセンターの活性化 防災組織の確立 独居高齢者の把握 (現在約 4,500 人) 認知症サポーターの充実 回覧板のような物の復活？ (コミュニティセンターだよりの配布を確認) (受け取りを確認)
その他	

2 ワークショップの状況と評価

以下、項目ごとにワークショップを振り返る。

総 評

今回のワークショップは、これまで開催した第1回から第4回までの参加者を対象として実施したことが大きな特徴である。参加対象者256人のうち参加承諾者数は91人であり、承諾率35.5%と非常に高い割合を記録した。さらに、当日の参加者69人のうち、全5回出席が10人もいたことは特筆すべきことである。(なお、4回は7人、3回は17人、2回は35人であった。)このことは、無作為抽出市民ワークショップが市民参加の手法として、その役割を十分果たすものであるとあってよいだろう。

当日の流れとしては、ワークショップに慣れた方が多かったこともあり、議論は白熱しつつも順調に進行した。議論を大きく括ると、「コミュニティの活性化」、「若い世代が住みやすい施策、子育て支援」、「高齢者の活躍」という内容であった。

また、今回、新たなチャレンジとして、職員がファシリテーターとして各テーブルに入った。ワークショップ自体を民間コンサルタント会社に委託する自治体も多い中、アンケートでは大多数が好意的に受け止めていることから、取り組みとしては一定の成果があったものとする。

今回のワークショップの目的は、調整計画の周知に加えて、「参加者（市民）が、自分のまちを自分で考え（きっかけ）、仲間がたくさんいることを知り（つながり）、多様な考え方があることを知る（多様性を力に）。そして、感じたことを行動にしていこう」ということを狙いとしたものであった。これらの目的が本当に果たされたかどうかは、調整計画の実行期間が終了する4年後を待たねばならないが、アンケートでは「今回が一番楽しかった」といったご意見をいただいております、目的達成の第一歩を踏み出すことができたのではないかと考える。



参加対象者

今回の参加対象者は、新たに無作為抽出を行うことはなく、第1回から第4回までのワークショップ参加者 256 人とした。これは、これまでワークショップに参加し、貴重な意見をいただいた方々に調整計画が策定されたことを報告するとともに、その内容を紹介することでさらなる市政参加を促すことを目的としたものである。

テーブル決め

各グループの人数が均等になるよう、どのテーブルにつくかは受付でくじ引きにより決定した。今回は、どのテーブルも同一テーマ「自治と連携によるまちづくり」であったため、特に問題なく円滑に進んだ。ただ、アンケートでは、年代や性別が均等になるよう事前に指定しておいてほしかった、という意見があった。結果的に当日欠席者が 22 人いたことを考えると、現実的には難しいと思われるが、それについては今後の課題としたい。

市長による調整計画の紹介

市長から調整計画についての紹介があり、①調整計画の概要、②平成 28 年度に実行すること、③今後の課題（ワークショップのテーマ内容含む）、についての説明があった（P. 29「第五期長期計画・調整計画のスタートにあたって」参照）。加えて、これまでのワークショップで出た主な意見（投票で各回 1 位の意見）について、それがどのように調整計画に反映されているかについて説明があった。これは、自分たちの意見がどのように調整計画づくりに活かされているのかという疑問に答えるものであり、アンケートでも資料の作成・公表を評価する意見があった。

また、市長による調整計画の紹介があるから参加したという意見も多く、関心が高かったことがわかる。



テーマ設定

今回のテーマは「自治と連携によるまちづくり」とした。これは、第五期長期計画のまちづくりの目標であり、調整計画においても「基本的な考え方」や「調整計画全体に関わる視点」で取り上げられているキーワードでもある。総合計画のワークショップという位置づけからも、狭い課題の議論にとどまることなく、大きな視点から議論ができるように設定したものである。

議論を始める前に、市長からテーマについての問題提起があった。これは、「今後の課題として、自治と連携のまちづくりをどのように進めるか」について説明し、キーワードを並べることで、参加者がイメージしやすいように、また、スムーズに議論に入っていけるように工夫したところである。

新たなチャレンジ ～職員の参加～

今回、新たなチャレンジとして、職員がファシリテーター（司会進行者）として各テーブルに入り、市民と共にワークショップを実施した。職員は、議論が円滑に進むようファシリテーターとしての役割を担い、中立の立場から議論の内容には参加しないというものである。

今回導入した理由はいくつかある。①調整計画の紹介があり、これまでより議論の時間が短くなったことで、タイムキーパーとして進捗を見ながら時間配分の手伝いが必要であると考えたこと。②意見はたくさん出ていても、付せんにメモをしておらずまとめの段階で困っていたグループがあったため、記録の手伝いが必要であると考えたこと、③話す人がどうしても偏ってしまう、または司会の役回りをすると自分が話せない、という意見があったことなどである。

前回は、議論の途中で10分程度の時間をとって職員が質問を受けるといった試みを行った。一定、議論の活性化に寄与したものの、それまでの議論の経過を十分に踏まえた回答ではないことや、質問と回答だけのやりとりとなってしまうため双方にとって満足感を得るところまでは至らなかった。今回は、前回の取り組みを分析した上で、職員の関わり方について改めて試行したものである。

当初、職員が入ることに対して「質問や現状の市政に対する不満などが集中して市民間討論が十分にできないのではないか」という心配もあった。しかし、各グループに入った職員からの報告では、「自分たちの市をもっとよくするにはどうしたらよいかという主体的な意見が多かった」とのことであった。冒頭の市長説明において、「活力ある都市ランキング1位（日経ビジネス2016.1.25号）に武蔵野市が輝きました。評価されたのは、地方自治に対する住民の意識が高いという項目であったが、まさにここにいるみなさんのことです」との話が出ていたが、その証左であろう。

参加者にもあらかじめ説明したが、職員が入る目的は、ファシリテーションのほかにもう1つ、職員の学びがあった。すなわち、「市民が課題だと思っていることや大切にしていきたいことを知ること。そして、どのように解決していきたいかを把握し、その上で、政策形成過程に反映し、具体的な施策として実行していくこと。」、これらを職員が直に感じて学ぶことである。

今回の取り組みに関して、アンケートでは大多数が「良かった」と好意的に受け取っており、今後も取り組みを進めてほしいという意見も多かった。これは、司会進行としての役割だけではなく、市民と職員が対話の場を持つことに対する期待の表れとも読み取れる。引き続き、市民参加と職員の関与のあり方について追究していく。



グループ討議

はじめに、市長の話聞いて「課題だと感じたこと」「大切にしていきたいこと」を考えてもらい、各自で課題出しをした。

その後、個人で考えた課題についてグループ内で話し、それぞれがどういったことを課題だと感じているか共有を図った。全員の発言が終わったところで、このワークショップにおいてグループとして議論を深めていきたい課題を絞る作業を行った。多くのグループが、この課題決めに苦労していた様子であった。裏を返せば、これは、どの参加者も強い思いを持っており、また、適切な課題認識をしているためであると思われる。グループとしての課題が決定したところで、現状や問題について議論を行った。ここまでが第1ラウンドである。

第2ラウンドは、発表に向けたまとめの時間である。グループが設定した課題について、「こうしたらもっと良くなる」、「まずはここから始めよう」、「自分にできることは？」という視点から、解決に向けた方向性の共有を図った。短い時間にもかかわらず、具体的な改善案や新しい提案が多くのグループから出ていた。

最後は、これまでの話し合ってきた成果をグループとして発表用シートにまとめ、発表者を決定した。

なお、今回もワールドカフェ方式による途中のメンバーチェンジを行わず、最初の討議から最後の発表まで同じメンバーで話し合いを行った。その理由は、議論の時間がこれまでより短かったため、同一メンバーで時間をかけてより深い議論を行っていただきたかったからである。結果、アンケートでも、移動せずにじっくり話せて良かった、という意見をいただいたところであるが、今後も内容や時間に応じて柔軟に設定していきたい。



発 表

グループの中から選ばれた発表者が、話し合いの結果について全グループに対し発表を行った。各グループの発表を受けて、市長からもコメントがあった。発表内容からあらかじめいくつかグルーピングした上で、まとめてコメントする形式をとったものの、結果的にはすべてのグループの発表内容に言及した。

持ち時間は1グループ3分であったが、いくつかのグループで大幅に超過してしまうことがあった。これは、議論の過程でたくさんの意見が出て、時間内では伝えきれなかったという面があるが、グループ間の公平性や参加者と約束した時間を超過する恐れなどの問題を考える必要がある。発表者には、「1分前」「30秒前」「時間です」という表示カードを提示していたところであるが、より効果的な手法を検討していきたい。





資 料

1 当日資料

(1) 当日の流れについて

第5回 第五期長期計画・調整計画市民ワークショップ ～本日の流れ～

1. 市長から計画紹介 30分

- ★ 市長から調整計画の紹介をします。
 - ★ 本日のテーマ「自治と連携によるまちづくり」についてお話しします。
 - 武蔵野市の目標であり、次のことを目指して調整計画を策定しました。
 - 武蔵野市にふさわしい自治のあり方を明確にしなから、自分たちのまちを自分たちでつくっていく。
 - 自分たちのまちだけではなく、地方や周辺の自治体と連携し、お互いの長所を生かしながら、それぞれの都市が成長、発展できる自治体を目指す。
- <キーワード>
- コミュニティ・地域のあり方、市民自治の推進、議会と市長の役割、多様な主体、地域の力、ポランティア推進、選挙権の引き下げ、協働型事業、都市間の交流と連携、平和の推進、東京2020オリンピック・パラリンピック、安心して生活することができる地域社会、健全な市政運営

3. 第1ラウンド 40分

- ★ 話し合いスタート！課題出しをします。(10分程度)
 - ・付せんに書いた意見をみなさんに紹介してください。
- ★ グループとして探めていきたい課題を設定します。(10分程度)
 - ・全員が発表したらみなさんと話し合い、グループとして話し合いを深めていきたい課題を決めましょう。
- ★ 現状や問題について話します。(20分程度)
 - ・本日はこういう状態が望ましいんだけど・・・
 - ・実際はこうなんだよね。
 - ・その原因って何だろう？
 - ・問題を解決するために、原因を探ることで解決の糸口をつつけていきましょう。

ここがPOINT!!

- ・人の発言は否定しない
- ・1回の発言は短めに
- ・みんなで発言しましょう

2. ワークショップ 12分

- ★ 名札を作成します。
 - ・くじの紙の裏に、お名前を書いてください。
 - ・本名でも、ニックネームでも構いません。
- ★ 自己紹介をします。(7分程度)
 - ・一人1分くらいで自己紹介してください。
- ★ 市長の話を聞いて、「課題だと感じたこと」「大切にしていきたいこと」を考えてください。(5分程度)
 - ・「課題出し」です。
 - ・付せんにどんなことを書いていきましょう！

ここがPOINT!!

- ・思いついたら、必ず付せんに書いて出します。
- ・付せんにたくさんあればあるほど、まごめが喜ぶ。

まごめ、準備はできましたか？
それでははじまりです！

※ 休憩は、ラウンド間などで適宜ご案内します。

5. 発表 50分

- ★ 発表します。
 - ・グループでまとめた内容を発表します。(1グループ3分以内でお願いします)

いよいよ最終段階。フアイトツ!

4. 第2ラウンド 45分

- ★ 解決に向けた方向性を共有します。(30分程度)
 - ・問題を解決するためにはどうしたらいい？
 - ・こうしたらもっと良くなると思う！
 - ・まずは、ここから始めよう！
 - ・自分にできることはある？
 - ・改善案や新しい提案などをどんどん出してください。
- ★ 発表用シートを作成します。(10分程度)
 - ・具体的でなくてもかまいません。話し合った成果をまとめましょう。
- ★ 発表者を決めます。(5分程度)

本日はこれで終了です。長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。

本日のワークショップは、みなさまにとって

- 自分のまちを自分で考える。(きつかけづくり)
 - 本日集まったのも「縁」、仲間がたくさんいることを知る。(つながり)
 - いろいろな人がいて、多様な考え方があることを知る。(多様な力を)
 - 感じたことを行動にしていこう。(意識を行動に)
- そのような場となるのが最大の目的です。

(2) 市長による調整計画の紹介

第五期長期計画・調整計画のスタートにあたって 武蔵野市長 邑上 守正

1. 第五期長期計画・調整計画の概要

- ✚ 計画期間は、平成 28 年度～32 年度の 5 年間
- ✚ 社会状況の変化や市政の課題などに的確に対応するための見直し、長期計画の議決箇所は継承
- ✚ 市民参加・議員参加・職員参加による策定方式（武蔵野市方式）を継承
- ✚ 今後 30 年後の人口（143,262 人→148,711 人、高齢化率 21.8%→33.1%）

■基本的な考え方

◆ 調整計画全体に関わる視点

- ①一人ひとりが尊重される社会の構築
- ②地域コミュニティ、地域活動の支援と協働
- ③魅力ある都市文化の醸成と発信
- ④分野、市域の枠を超えた事業の連携

◆ 調整計画の重点取り組み

- ①高齢者福祉計画、障害者計画の着実な推進
- ②多様な主体による子育て支援施策の実現
- ③公共施設ネットワークと都市基盤の再整備
- ④環境共生都市の創造に向けた新たな取り組み
- ⑤個性輝く三駅周辺のまちづくりの推進
- ⑥情報収集・提供機能の強化と連携

■施策の体系

I 健康・福祉

- ・支え合いによる地域福祉
- ・安心して暮らし続けられる仕組み
- ・健康づくりの推進、生活継続の基盤整備
- ・地域で輝けるステージづくり

II 子ども・教育

- ・子育てと子育てへの総合的支援
- ・地域社会全体の連携による子育て支援
- ・青少年の成長・自立支援
- ・次代を担う力を育む学校教育

III 文化・市民生活

- ・市民活動の活性化と平和な社会の構築
- ・市民文化の醸成とスポーツ活動への支援
- ・都市・国際交流の推進 ・産業の振興
- ・災害への備えと危機管理

IV 緑・環境

- ・市民の自発的・主体的な行動促進
- ・環境負荷低減施策の推進
- ・緑を基軸としたまちづくり
- ・循環型社会のシステムづくり

V 都市基盤

- ・下水道など都市基盤の更新
- ・道路ネットワークと円滑な交通環境の整備
- ・三駅周辺、特性にあったまちづくり
- ・住宅施策の取り組み ・安全な水の安定供給

VI 行・財政

- ・市民参加、協働と連携の推進
- ・市民視点のサービス・情報提供の推進
- ・公共施設の再配置・市有財産の有効活用
- ・変化に対応する行財政、チャレンジする組織

財政計画

- *28 年度～32 年度の財政は、概ね安定的に推移（5 か年の合計 3,231 億円、平均年 646 億円の予算）
- *資産・負債のバランスは健全な水準を維持できると見込んでいる。
- *30 年後の財政予測では、市税の減少と社会保障費や公共施設更新費用の増で、財源不足を見込む

2. 平成 28 年度（2016 年）に実行すること（平成 28 年度 施政方針並びに基本的施策より）

■テーマ

『一人ひとりを大切に 文化をはぐくみ 未来につなぐ』

一般会計予算：667 億 6,600 万円（前年比 6.2%増）

■基本的考え

- (1) 平和で活力ある都市づくりに向けて
 - ・平和への希求
 - ・震災の経験を教訓に
 - ・人口ビジョンと地方創生に向けて
- (2) 一人ひとりを大切にする社会に向けて
 - ・差別のない社会に向けて
 - ・地域リハビリテーションの推進
- (3) 子どもたちの笑顔をはぐくむ
 - ・子育て支援の充実
 - ・教育環境の充実
- (4) 地域コミュニティと自治の前進
 - ・地域コミュニティづくりの推進
 - ・地域活動の支援と協働
 - ・自治の前進と確立
- (5) 個性輝くまちづくり
 - ・三駅周辺のまちづくり
 - ・景観まちづくり
- (6) 環境と文化の創造
 - ・環境共生都市の創造
 - ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた都市文化の創造
- (7) 健全な市政運営

■平成 28 年度の主な施策予定

◇健康・福祉…だれもが安心して暮らし続けるために

- ・小規模の高齢者の居場所「いきいきサロン事業」の推進
- ・北町にテンミリオンハウス開設
- ・特別養護老人ホーム（関前一丁目、定員 70 名、平成 29 年 6 月開設）の開設支援
- ・シニア支え合いポイント制度（ボランティア・ポイント）の試行実施
- ・がん検診、妊婦検診事業の充実（土曜日検診などを増やす）

◇子ども・教育…待機児ゼロをめざす

- ・認可保育所 2 園の開設支援、保育園の建て替え拡充
- ・吉祥寺レンタルベビーカー事業の本格実施
- ・学童クラブと地域子ども館あそべえの機能強化
- ・電子黒板などの全小中学校教室への導入
- ・特別支援教育の充実（全市立小学校に特別支援教室の設置準備）
- ・スクールソーシャルワーカーの増員
- ・学校施設整備基本計画の策定（小中学校の整備方針）

◇文化・市民生活…平和・人権を尊重し文化をはぐくむ

- ・市民文化会館改修事業（平成 29 年 4 月リニューアルオープン）
- ・文化振興基本方針（仮称）策定
- ・吉祥寺図書館のリニューアル

- ・東京オリンピック・パラリンピックに向けた啓発事業、ルーマニア国のホストタウン事業の推進
- ・男女共同参画推進センターの整備と男女共同参画条例の検討
- ・コミュニティセンターのエレベーター設置（関前、緑町）
- ・観光計画の改定と観光事業の推進（外国人対応など）
- ・創業支援施設の運営費補助（インキュベーション支援）
- ・平和啓発事業（憲法月間、夏季平和事業、平和の日事業、戦争体験記録）
- ・耐震化の促進と災害用トイレの設置（全小中学校へ設置完了）

◇緑・環境…環境都市をめざして

- ・エネルギー地産地消都市の構築（ガスコージェネ発電、ごみ発電、太陽光発電、地中熱発電）
- ・新クリーンセンター建設（平成 29 年 4 月稼働）
- ・環境啓発施設（エコプラザ）の検討（現クリーンセンター管理棟の再利用）
- ・井の頭恩賜公園 100 周年（平成 29 年）記念啓発事業
- ・緑のサポート制度事業（研修を受けた市民による生け垣などの刈り込み支援）
- ・水の学校第三期開校（学び→参加→参画へ）

◇都市基盤…美しい街並みの形成

- ・女子大通り下水道幹線管きょ更生工事（5 か年で 800m 区間更生）
- ・パーク吉祥寺エリア整備事業化検討
- ・三鷹駅北口街づくりビジョンの策定
- ・公民連携による武蔵境駅北口市有地の有効活用（市政センター＋民間施設）
- ・景観ガイドラインの策定とまちづくり条例の改正（景観基準含む）

(3/4)

(ワークショップテーマ)

3. 今後の課題として…自治と連携のまちづくりをどのように進めるか。

自治体の姿は、自治の力によって形作られる。市民、団体、企業など多様な主体がそれぞれの自治をベースに連携しながら地域の力をはぐくむことが求められている。加えて周辺自治体や友好都市等との都市間の連携も、ますます重要性が増していく。本市で培われてきた市民自治の確立と、多様な連携をどのようにはぐくんでいくべきなのか？市民や行政は、何をすべきか、何ができるのか？

(1) 武蔵野市の自治の前進：参加型市政の展開／市民の多様性を活かす

- ・コミュニティと自治、地域の団体・コミュニティ協議会への期待→新コミュニティ構想
- ・地域コミュニティへの期待（福祉・防災・防犯・青少年の健全育成他）
- ・指名型市民委員会→公募型委員会→無作為抽出型市民会議
- ・各種タウンミーティングの展開
- ・議会と市長の役割
- ・武蔵野市らしい自治の明確化→自治基本条例の必要性

(2) 武蔵野市の連携の取り組み／自治体の多様性を力に

- ・医療と介護の連携、循環型環境への取り組み（ごみ処理、雨水・下水処理）
- ・大学等との連携（成蹊大との包括連携協定、亜細亜大との包括連携協定、生涯学習）
- ・民間事業者との連携（イトーヨーカ堂・セブンイレブンの包括連携協定）
- ・周辺自治体との連携／4市連協・公共施設相互利用・コミュニティバス共同運行・医療福祉連携
- ・武蔵野市交流市町村協議会 ＊多様な交流／青少年・市民・文化・産業・災害支援・職員派遣

(3) これからの連携に向けて／展望と課題

(多様な主体との連携)

- ・市民サービスの協働実施
- ・地域リハビリテーションの推進（医療・健康・福祉・教育などの連携）
＊誰もが安心して暮らし続けられる地域での支え合いの仕組み
- ・小中学校の連携、地域との連携、公共施設の複合化、
- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックにむけての連携

(自治体連携)

- ・地方分権を受ける自治力の増強、自治体連携の強化（依存から相互連携へ）
- ・新たな連携の輪…友だちの友だちは皆友だち→杉並区スクラム支援会議
- ・海外との交流による平和推進
- ・合併ではない自治体連携
＊市民サービスの広域実施（市政センターの共同化、ごみ処理、エネルギー、文化施設、保健医療福祉ネットワーク、インフラ整備）

(3) これまでのワークショップの意見と調整計画への反映について

第五期長期計画・調整計画無作為抽出市民ワークショップ（第1回～4回）の
意見と調整計画への反映について

これまで、第五期長期計画・調整計画無作為抽出市民ワークショップを4回（7日間）開催し、256人（のべ579人）の市民のみなさまにご参加いただきました。各回とも活発な議論がなされ、たくさんの貴重なご意見をいただきました。そこで、主なご意見と、それがどのように調整計画に反映されたかについて、以下のとおりまとめましたのでご紹介いたします。

	各分野における 主な意見	調整計画への反映
第 1 回	老後への不安を感じないで生活できるまち <健康・福祉>	生涯住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり」として、市民を含めたすべての関係者が一体となって推進することを記載しました。(P.11 基本施策1 (1)) 「保健・医療・介護・福祉の連携の推進」や「介護・看護人材の確保」についても記載しています。(P.12 基本施策2 (3)、P.14 基本施策4 (3))
	安心安全なまち（自転車マナー、街灯、防犯カメラ等） <子ども・教育>	文化・市民生活分野において、防犯カメラ設置や各種パトロール活動について取り上げた上で、「まちぐるみで安全・安心なまちづくり体制を整備する」ことを記載しました。(P.30 基本施策8 (1)) 子ども・教育分野では、安全な学校づくりや、「防犯教育・交通安全教育・防災教育を進め、地域ぐるみで子どもの安全を守る体制づくりを推進すること」について記載しています。(P.23 基本施策5 (8))
	女性も働きやすい保育・サポートの充実したまち <子ども・教育>	待機児童対策を進めるため「認可保育所をはじめとする保育施設の整備をさらに進める」ことや、「多様な保育ニーズへの対応について検討を進め、安心して働き続けられるための支援を行っていく」と記載するなど、これまでと比べてもかなり力を入れた記述としました。(P.18 基本施策1 (3)) また、ワーク・ライフ・バランスを推進するため、職場の意識や働き方の改革の支援についても記載しています。(P.17 基本施策1 (1))
	武蔵野のおいしい水を利用した地域ブランドを作ろう！ <文化・市民生活>	文化・市民生活分野「基本施策5 地域の特性を活かした産業の振興」の中に、「本市の実態に合った新たな産業への支援を通じて、市の経済の活性化を図る」と記載しました。(P.28 基本施策5)
	都市景観の維持・改善（電柱の地中化） <都市基盤>	「調和のとれた都市景観の形成」について記載し、「景観まちづくりの具体的な展開」や「道路の景観整備の推進」について取り組んでいくことを掲げました。(P.38 基本施策1 (4))

	各分野における 主な意見	調整計画への反映
第 2 回	終末医療・治す医療でなく看とって下さる医療も充実させてもらいたい<健康・福祉>	「すべての市民が生涯を通じて住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、(中略)体系的、継続的な支援を行うための仕組みづくりを推進する」と記載しました。在宅生活の継続やそのための基盤整備についても記載しました。(P.11 基本施策2、P.15 基本施策5)
	誰もが働きやすくするための保育サービスの提供 <子ども・教育>	待機児童対策を進めるため「認可保育所をはじめとする保育施設の整備をさらに進める」ことや、「多様な保育ニーズへの対応について検討を進め、安心して働き続けられるための支援を行っていく」と記載するなど、これまでと比べてもかなり力を入れた記述としました。(P.18 基本施策1(3)) また、ワーク・ライフ・バランスを推進するため、職場の意識や働き方の改革の支援についても記載しています。(P.17 基本施策1(1))
	市民農園の増加 利用していない農地の活用 <文化・市民生活>	「市民が農業にふれ合う機会を設け続けること」や「都市農業の振興と農地の保全」について記載しました。(P.29 基本施策5(5))
	若者に長く住んでもらう(保育所増設、家賃補助) <行・財政>	第五期長期計画・調整計画全体を通じて、若者のみならず誰もがいつまでも本市に住み続けられるよう、武蔵野市の特性を最大限生かしたまちづくりを進め、他都市と連携し、魅力ある自治体運営を行っていくことを記載しました。 なお、保育所整備をはじめとした保育ニーズへの対応や子育て支援施策の充実など、子育て世代が安心して子どもを産み、育てられる社会の実現についても記載しています。(P.17~18 基本施策1)

	各分野における 主な意見	調整計画への反映
第 3 回	民生委員不足の解消 <健康・福祉>	市民が主体となる地域福祉活動をさらに推進していくため、「誰もが地域を支える担い手となる仕組みづくりを推進する」ことを記載しました。併せて、市としてそれらの活動に対して支援していくことも記載しました。(P.11 基本施策1(2)) また、「地域における活動の場を確保するための取り組みを行っていく」ことも記載しています。(P.14 基本施策4)
	英語教育の拡充 <子ども・教育>	「外国語によるコミュニケーション能力を高めるため、英語教育の充実を図る」とし、第五期長期計画よりも踏み込んだ記載としました。(P.21 基本施策5(1))

第3回	街の美観 ＜緑・環境＞	<p>「本市のまちの魅力を一層高めるため、(中略)さらに良好な景観を形成していく必要がある」とし、「屋外広告物のルール化などのについても景観ガイドラインの作成と連動し、関係部署と連携して検討する」と記載しました。(P.35 基本施策5(2))</p> <p>また、都市基盤分野でも「調和のとれた都市景観の形成」について記載しており、「景観まちづくりの具体的な展開」や「道路の景観整備の推進」について取り組んでいくこととしています。路上看板等の改善指導についても施策体系図に位置づけました。(P.38 基本施策1(4))</p>
	市議会の廃止 ＜行・財政＞	<p>市民自治の推進には市民参加が不可欠であり、「常に新しい時代の市民参加のあり方を追究する」と記載しました。また、「市民から信託された議会及び市長が果たす役割や責務についての基本的な考え方を整理し、市民参加の手法も体系的に整備していく必要がある」ため、「市政運営の基本原則と根幹となるルールについて、条例化を含めて検討する」と記載しました。(P.46～P.47 基本施策1(1)、(3))</p>

	各分野における 主な意見	調整計画への反映
第4回	<p>情報の垂れ流しではなく、伝えたいターゲットに応じた媒体の活用を通じて、欲しいところへ情報を届ける。</p> <p>＜行政がやるべきこと＞</p>	<p>「情報収集・提供機能の強化と連携」は、全分野において取り組んでいく課題であることから、6つある「調整計画の重点取り組み」の1つとして挙げました。その中で、「積極的かつ戦略的に広報活動を推進していくとともに、様々な機会を捉えて地域の課題を把握していく」と記載しました。(P.9 調整計画の重点取り組み6)</p> <p>また、行・財政分野においては、「市民に届く情報提供」「積極的な情報発信」に向けた取り組みについて記載しました。(P.48 基本施策3)</p>
	<p>コミセンの「プレイス化」</p> <p>＜市民ができること＞</p>	<p>「誰もが自由に参加でき、地域で解決すべき課題について共有し、話し合うことができる場である地域フォーラムの取り組みを支援するとともに、市民の活動拠点であり、また、多世代が集う居場所として、コミュニティセンターにふさわしい機能を充実させる」と記載し、市民活動の活性化について取り組んでいくことを明記しました。(P.24～25 基本施策1)</p> <p>また、調整計画全体を貫く基本的な視点として「地域コミュニティ、地域活動の支援と協働」を掲げ、全分野共通の取り組みとして推進していくこととしました。(P.7 調整計画全体に関わる視点2)</p>

2 参加者のアンケート集計結果

(有効回答数：68 件)

※自由記載欄は、原文のまま表記

アンケート集計結果

参加者には、ワークショップ終了後にアンケートの記入をお願いし、68 人の協力を得られた。

項目	人数	比率 (1つ上の項目に 対する比率)
案内状送付	256	
参加承諾者	91	35.5%
実際の参加者	69	75.8%
アンケート回答	68	98.6%

問 1

(1) 性別

第1回から第3回までのワークショップの参加人数は、女性が男性を上回っていたが、第4回と第5回は男性が上回っており、市民参加の意識は男女に偏りはないと推測される。

項目	人数	比率
① 男性	38	55.9%
② 女性	29	42.6%
不明(無回答)	1	1.5%
合計	68	

(2) 年齢

年齢構成については20歳代から80歳代までの方から参加があり、幅広い年代の方々に参加していただくことができた。これまでの長期計画・調整計画のワークショップは、18歳以上の市民を無作為抽出して案内を送付している。このことから10歳代への案内は他の年代に比べて少ないため、過去4回のワークショップでも10歳代の参加率は低い状況にあった。また、20歳代の参加者が少なく、60歳代が多いという状況はあるものの、全体的には均等に年齢が別れている。

項目	人数	比率
① 10歳代	0	0.0%
② 20歳代	3	4.4%
③ 30歳代	9	13.2%
④ 40歳代	8	11.8%
⑤ 50歳代	9	13.2%
⑥ 60歳代	23	33.8%
⑦ 70歳代	11	16.2%
⑧ 80歳代以上	5	7.4%
合計	68	

(3) 住所

町目別の参加者割合については、吉祥寺北町、緑町、関前、境の参加者が多く、一方で吉祥寺南町、御殿山、八幡町、境南町、桜堤の参加率は低い状況にあった。今回のワークショップでの割合も、これまでと同様の傾向にあり、地理的要因や町の住民の人数の影響が割合に影響していることが推測される。

項目	人数	比率
① 吉祥寺東町	5	7.4%
② 吉祥寺南町	3	4.4%
③ 御殿山	2	2.9%
④ 吉祥寺本町	4	5.9%
⑤ 吉祥寺北町	7	10.3%
⑥ 中町	6	8.8%
⑦ 西久保	4	5.9%
⑧ 緑町	10	14.7%
⑨ 八幡町	3	4.4%
⑩ 関前	9	13.2%
⑪ 境	9	13.2%
⑫ 境南町	3	4.4%
⑬ 桜堤	3	4.4%
合計	68	

(4) 職業

参加者の職業については、これまでと同様に会社員、専業主婦・主夫、無職の割合が高い状況にある。一方、第4回に参加者が多かった学生は4.4%と大幅に減少しており、3月の春休み期間による帰省などが原因として考えられる。また、前回は18歳から24歳への案内を500通増加したが、今回は追加の案内は行っていないことも原因の一つであろう。

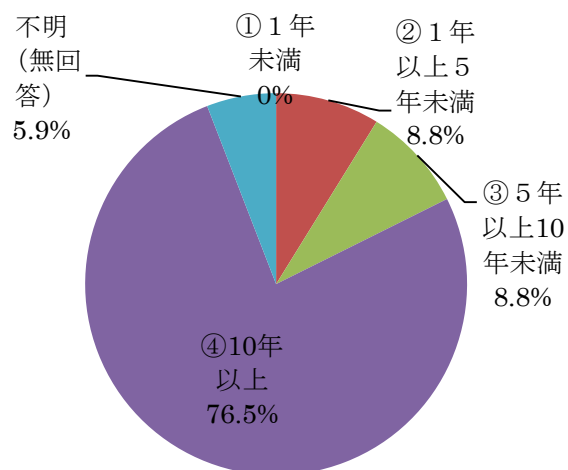
項目	人数	比率
① 会社員	22	32.4%
② 公務員	2	2.9%
③ 自営業	1	1.5%
④ パート・アルバイト	5	7.4%
⑤ 専業主婦・主夫	16	23.5%
⑥ 学生	3	4.4%
⑦ 無職	16	23.5%
⑧ その他(※)	2	2.9%
不明(無回答)	1	1.5%
合計	68	

※・・・「団体職員」「年金」との記述。

(5) 居住年数

武蔵野市での居住年数については、④10年以上の人が、参加者のうちの7割を超えている。一方で①1年未満、②1年以上5年未満、④5年以上10年未満を合わせても12%という状況である。これまでのワークショップでも同様に④10年以上の参加者が多い状況にある。このことは、長く定住している方ほど、市政への関心が高い傾向にあると考えられる。

項目	人数	比率
① 1年未満	0	0.0%
② 1年以上5年未満	6	8.8%
③ 5年以上10年未満	6	8.8%
④ 10年以上	52	76.5%
不明(無回答)	4	5.9%
合計	68	



参加のきっかけ

複数回答を可として、参加を決めた理由をすべてあげていただいた。参加人数 69 人に対し、164 件の回答をいただき、単純に計算すると一人当たり 2 件以上の理由により参加を決めている。

全回答数に対する割合が多かった「前回参加して楽しかった、興味がわいたから」が 22.0% であり、「長期計画・調整計画やその策定過程に興味があったから」と合わせて 40.9% であったことから、長期計画の策定方式の一つである「市民参加」を楽しみながら行うことができたものとする。また、参加した感想についても、「おもしろくなかった、つまらなかった」と回答された方は 1 人のみであり、多くの方に満足いただけたものと思われる。

さらに、多くの方が、このワークショップを通じて「市政について関心が高まった」「今後の武蔵野市について考える機会となった」と回答しており、ワークショップの効果として新たな「市民参加」につながっていくことが期待される。

問2 今回、参加をお決めいただいた理由はなんですか？（いくつでも）

項目	件	比率
①前回参加して楽しかった、興味がわいたから	36	22.0%
②市長から調整計画の紹介があったから	19	11.6%
③今回のテーマに興味があったから	6	3.7%
④長期計画・調整計画やその策定過程に興味があったから	31	18.9%
⑤市民として何か活動してみたいと思っていたから	21	12.8%
⑥報酬がよかった(魅力的だった)から	12	7.3%
⑦日ごろ感じていることについて他の市民と話してみたかった、意見を聞いてみたかったから	25	15.2%
⑧たまたま日程が合ったから。	13	7.9%
⑨その他(※)	1	0.6%
	164	

※・・・「参加しないと何となく市民としての責任を果たしていないのではないかという謎の罪悪感により」
との記述。

問3 参加された感想をお聞かせください。

項目	人数	比率
①おもしろかった。楽しかった。	62	91.2%
②おもしろくなかった。つまらなかった。	1	1.5%
③どちらでもない。	3	4.4%
④その他(※)	2	2.9%
	68	

※・・・「考えを共有できるメンバーが居て役に立った」「思った以上に高齢者が若者の事を考えてくれているんだなあ実感できました。今までは皆、自分の事しか考えておらず、子育て問題など真剣に考えてくれないと思ってました。」「市長の前振りが長かった」「市政に興味があった」との記述。

問4 今回、ワークショップに参加されて、どのようにお感じになりましたか？
(いくつでも)

項目	人数	比率
①市政について関心が高まった。	39	20.4%
②第五期長期計画・調整計画について関心が高まった。	30	15.7%
③話し合いのテーマについて関心が高まった。	28	14.7%
④今まで知らなかった人(市民)と知り合うきっかけとなった。	17	8.9%
⑤今後の武蔵野市について考える機会となった。	38	19.9%
⑥いろいろな市民がいて、いろいろな意見や考え方があることがわかった。	37	19.4%
⑦何も感じなかった。	0	0.0%
⑧その他	2	1.0%
	191	

今後について

今後やってみたいと思う活動として、「タウンミーティングや市民会議に参加したい」が44.6%と最も多い回答であった。その他やってみたい活動を合わせると、92.8%になり、多くの方の活動意欲が高いことがうかがえる。

また、今回のワークショップでは、職員がファシリテーターとして各テーブルに入ることや対応について、「良かった」「満足できた」がそれぞれ85%の回答をいただいた。今後ワークショップの案内が届いたら参加したいと思うかという問いに対しては、「参加したい」も85%あった。今後ワークショップを開催するとしたらどんなテーマを希望するか質問したところ、60歳代以上の方の参加者が多かったものの、「子どもに関すること」、「高齢者に関すること」、「世代別テーマ」、「コミュニティに関すること」など、偏りのないご意見をいただくことができた。

問5 今後やってみたいと思う活動はありますか？ (いくつでも)

項目	人数	比率
①第五期長期計画・調整計画を読みたい。	25	30.1%
②第五期長期計画・調整計画以外の様々な計画策定で意見を提出(パブリックコメント)したい。	15	18.1%
③タウンミーティングや市民会議に参加したい。	37	44.6%
④特にやりたい活動はない。	6	7.2%
⑤その他	0	0.0%
	83	

問6 テーマの話し合いの時間について。

項目	人数	比率
①適当	53	77.9%
②長い	5	7.4%
③短い	7	10.3%
④その他	0	0.0%
⑤不明(無回答)	3	4.4%
	68	

問7 職員がテーブルに入ることについて、どのように感じましたか？

項目	人数	比率
①良かった。	58	85.3%
②どちらでもよい。	6	8.8%
③入らないほうがよい。	1	1.5%
④不明(無回答)	3	4.4%
	68	

問8 全体を通じてスタッフの対応はどうでしたか。

項目	人数	比率
①満足できた。	58	85.3%
②ふつう。	6	8.8%
③満足できなかった。	1	1.5%
④不明(無回答)	3	4.4%
	68	

問9 今後、ワークショップのご案内が届いたら参加したいと思いますか？

項目	人数	比率
①参加したい。	58	85.3%
②参加したくない。	2	2.9%
③その他(※)	4	5.9%
④不明(無回答)	4	5.9%
	68	

※・・・「テーマによりけり」「わからない」「保留」「予定が合えば」との記述。

問 10 今後、ワークショップを開催するとしたら、どのようなテーマを希望しますか。

- ・若い夫婦に魅力のある安心して働き、暮らせる町。
- ・30年後の財源不足をテーマとした生産者の増加に向けた意見交換
- ・インフラ
- ・コミセンについて
- ・コミセンのあり方、コミセンの運営委員の長期に勤務で雰囲気がいまいち入りにくい。運営委員の固定化されてしまっている。
- ・コミセンの新構想について。法改正の動きと地方公共団体の立場。
- ・シニア世代の有効利用。障害者の雇用。
- ・テーマを絞って意見交換したら(たとえば、災害対応、高齢者援助、子育て等)
- ・テーマを絞り込んだワークショップにしてほしい
- ・安心な老後。老後を健康に送る。
- ・安全
- ・各地域ごとにコミュニティセンターの活性化を考えたい
- ・学校教育について
- ・義務教育、子育て支援、障害者雇用等
- ・議会をどうしたら無くせるのか。
- ・喫煙所についてテーマをだしてほしい
- ・具体的なテーマ。(絞った)
- ・健康、福祉、安心・安全な武蔵野市に長く暮らし続けられる為に
- ・絞り込んだ個別テーマ。Ex.情報提供や市 HP デザイン
- ・高齢
- ・高齢化社会への取組み
- ・高齢者(定年退職者)の再雇用を拡大するためには。
- ・三鷹、吉祥寺、武蔵境のまちづくり
- ・子育て支援政策。
- ・市政と住民(市民)との連携
- ・住環境充実。
- ・市民のマナーについて(自転車、タバコ、子供、ペット・・・大人のマナーが悪いので子供のマナーも悪い
- ・若い人の住みやすい街づくり
- ・若い人中心のイベント、シニアの人のボランティアの実施
- ・若い世代が安心して産める、子育て出来る地域、国、長期的に見てそれに尽きると思う。税金を払う世代が増える事です。(保育園問題、住宅問題)
- ・新コミュニティ構想について興味を持った
- ・新コミュニティ構想楽しみにしております。
- ・震災への防災。東北大震災から5年で判って来たことを活かす。関東大震災への備え。

- ・人材活用
- ・世代別にやってはどうか。
- ・世代別のテーマ
- ・全国先駆けて自転車走行取締りの罰則条例化
- ・地域生活の確立について
- ・電柱の地中化
- ・特に不明
- ・年齢人口がバランスの良い町になるテーマ
- ・武蔵野市の今後のあり方、進み方について
- ・文化の推進、外国人対応
- ・保育、子育て
- ・ワークライフバランス、・子育て、・教育
- ・子育てを安心してできる町
- ・老人世帯について
- ・老人問題

問 11 今回のワークショップの感想（興味を持たれたこと、印象に残ったこと、困ったところ、わかりづらかったところなど）を自由にご記入ください。

- ・本当にいろいろな意見が出て、とても刺激になりました
- ・毎回違った意見が出て印象に残ります。この様な機会増やして市民交流につなげて下さい。
- ・問題意識を明確に持つておられる参加者中心にまとまった発表内容となった。
- ・いろいろな人がいて、いろいろな意見が出て、自分の世界の狭さを覚えた。社会との関わりに関心をもつきっかけとなりました。
- ・グループを移動しなかった事が良いと思います。職員がテーブルに入ったことも良かったと思います。
- ・今回一番たのしかったです
- ・これまでの WS で出された意見を反映した点をまとめた資料があったことは評価したい。前回の WS の報告書を読んだが、若年層への参加依頼を増加していたとの事で、運営する側もなかなか苦労しているのかなと思った。（参加者が中高年に片寄るのは人口構成上致し方ないので）また、話のまとめ役として市職員が参加することには一長一短あると思う。議論の方向性がある程度固まっている場合は良いが、まとまらなくなる場合もある。
- ・テーマが広範囲にわたり、議論が散漫になりがち。困ったことは意外に共通しており、身近な問題であった。今後ともこの種のワークショップを続けて欲しい。
- ・色んな世代の方とお話しできて、いい経験になりました。
- ・前回より市長の説明があり、より現実的に感じ、良かった。

- ・前は職員の方が入られてなく、進行がままならなかったのですが、気が楽になりました。新コミュニティ構想、大賛成です！！
- ・とても興味をひかれたことがありました。いろんな方々とコミュニケーションができて良い経験になりました。
- ・もっと回数を増やすべき
- ・より効果的なWSのやり方について調査すべき。
- ・グループをくじで決めるのではなく、年齢、性別などが多様になるようにあらかじめ決めておいてほしい。片寄った構成だと片寄った意見しか出ないと思う。
- ・会社と家の往復になりがちで、他の市民の声が聞けて他の世代、他の地域の人々の顔を見ることができました。より長く住みたい良い市だなあと思う事が出来ました。
- ・皆さん話しやすく意見もたくさん出たと思います。住みやすい武蔵野市をこれからも目指してください。
- ・議論のテーマで意見が別れ、いろいろな考えが聞けて良かったと思います。
- ・結局いくら良い意見、アイデアが出て、実際に行動するかが問題。
- ・公募市民にも興味あります。
- ・考える時間、ディスカッションの時間を長くしてほしい
- ・高齢の方の一人暮らしのサポートを考えていただくとよろしいのですが。
- ・今回のテーブルでは、今までと違って何かをやって欲しい事ばかりではなく、何が出来るかという意見が出て良かったです。
- ・仕方のない事かも知れないが、若い人が少ない。年齢層のバランスが取れるようにしてほしい。
- ・市の広報活動も少なくまた自分が理解していなかったことがより理解できた。なるべく知る方法を考えてみたい。
- ・耳が悪くなっているので同席の方々の話が充分にきこえなかったのが残念でした。
- ・若い人(20代~40代)のみのワークショップを考えて頂きたい。
- ・職員と一部の人が話していてほとんど話せなかった。発表の時間が短い。もっと聞きたかった。
- ・職員の方に入って頂いたのがとても良かったです。でも発表が長い・・・。
- ・ワークショップの案内をもう少し早く出して欲しかった。
- ・地域開発と企業・お店のゆうどう
- ・大野田小学校に子どもが通学しています。先日、PTA等の会合で来年度の新1年生の入学者数が増加(+50名)したので、職員だけでは入学に向けた準備ができないので、校長先生から保護者に協力要請があったそうです(50名の募集をしたいとのこと)。150名程度で職員の手がまわらず、保護者に協力を求めないといけない状態が正常とは思えません。事前準備であれば、時間をかければ良いですが、その努力をしていることが見えず、安易に保護者を利用しているように考えられます。運動会のような1日限りのイベントであれば保護者の協力は喜んでしますが、事前に準備できる仕事まで保護者の善意につけ込む姿勢はいかがなものかと思えます。

- ・職員参加はとても良かったです。
- ・長期計画案是非実行して頂きたいと思います。優先順位をつけて。待機児童が0になれば必ず若い世代が戻ってきます。
- ・発表時間を守ろう。終了時間を守ろう。市長の話が長い、長すぎる。
- ・「連携」という言葉が、他市に頼れば良いという逃げになっていないか。まずは自治体でしっかりと待機児対策をしていただくことを希望します。具体的数字が手元がない状態で個々人の知識、思い込み(すりこみ)での議論はどれだけ具体性があるのか不明。数値情報をもっと出してほしい。ワークショップの成果がみえにくい。言ってもムダ感がある。ここで保育園、待機児と言ったところで、結局有効な対策にはつながらない気がしている(聞いているだけでやる気がない)。待機児対は市長の公約だったはずなのに悪化しており、やる気が感じられない(打つ手はあるように思えるのに市はやっていない。
- ・イノベーションやリハビリテーションなど、辞書を引いただけでは内容の想像がつきづらいカタカナ言葉に頭をひねりました。
- ・年代の違う市民の方々とお話ができ、勉強になりました。

3 その他資料

(1) ワークショップのご案内

みなさまにご協力いただいた第五期長期計画・調整計画ができました！

邑上市長から

3月6日(日)午後1時開始

調整計画の紹介と

これまでの参加者限定！

ワークショップを開催します

市では、平成28年4月から始まる第五期長期計画・調整計画を策定しました。今回の調整計画も、公募による市民会議、圏域別市民意見交換会、関係団体意見交換会、パブリックコメント（意見公募）等、積極的に市民参加の手法を取り入れてきましたが、平成26年5月の無作為抽出市民ワークショップIが1年9カ月にわたる策定作業のスタートでした。以降、平成26年11月、平成27年3月、10月と計4回のワークショップを開催いたしました。

このたびの計画策定を受け、無作為抽出市民ワークショップにご参加いただき、貴重なご意見をくださったみなさまに、第五期長期計画・調整計画について紹介したいと思います。

また、この調整計画の実効性をより高めていくにはどうしたらよいかという視点で、みなさまからご意見・ご提案を頂戴し、グループごとに意見交換していただきたいと思っております。（具体的なテーマは、当日お知らせします。）

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

※第五期長期計画・調整計画については、市ホームページでご覧いただけます。

（これまでのワークショップの様子もご覧いただけます）

http://www.city.musashino.lg.jp/sesaku_keikaku/kihonkoso_chokikeikaku/17837/023308.html

なお、今後は

- 4月1日市報特集号で全戸配布
- 冊子版は、市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンターで配布（4月～）していく予定です。

長期計画・調整計画とは・・・

長期計画とは、10年間を期間とする市の最も重要な計画です。市は、長期計画に基づいて市政運営を行います。

調整計画は、長期計画策定後に生じた法律の改正や社会情勢の変化などに対応し、計画の実効性を保つために策定するものです。



この案内は、これまで無作為抽出市民ワークショップにご参加いただいた方にお送りしています。

（裏面あり）

(裏面)

1 日 時 平成28年3月6日(日) 13:00~17:00(開場は12:30)

2 会 場 武蔵野市役所 西棟8階 811会議室(緑町2-2-28)

3 謝 礼 4,000円の金券(クオカード)※当日お渡しします

4 参加を承諾される方

(1) 承諾書の返送

参加をご承諾いただける方は、お手数ですが、別紙承諾書に必要事項をご記入のうえ、同封の返信用封筒によりご返送ください。(平成28年2月23日(火) 必着)

(2) 参加者の決定

参加を承諾された方全員がご参加いただけます。承諾書を送付いただいた時点で自動的に参加決定となります。当日、直接会場までお越しください。

※今回は、参加決定の通知はありません。

(3) 注意事項

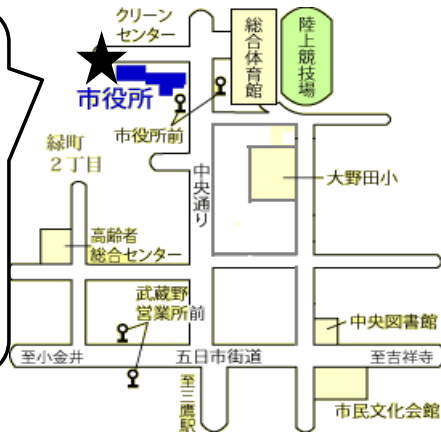
- ① 参加できる方は、通知のあて先のご本人様のみとなります。ご家族の方などでも代理で参加することはできません。
- ② 当日お持ちいただくものはありませんが、売店等が閉まっているため、お飲物をご用意されることをお勧めします。

☆吉祥寺駅(北口バス停①のりば)
柳沢駅前行き(武蔵野市役所経由)
「武蔵野市役所」下車

☆三鷹駅(北口バス停①のりば)
北裏、武蔵関駅、田無橋場行き
「武蔵野市役所前」下車

☆武蔵境駅(北口バス停④のりば)
三鷹駅行き「武蔵野営業所」下車徒歩8分

※入口は、西棟の宿直入口になります。
※当日は駅伝・マラソン大会開催のため、**駐車場は使用できません。**



★お問い合わせ★

武蔵野市 総合政策部 企画調整課

〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28

TEL 0422-60-1801 FAX 0422-51-5638

E-mail sec-kikaku@city.musashino.lg.jp

(2) 承諾書

承諾書

私は、武蔵野市第五期長期計画・調整計画無作為抽出市民ワークショップの趣旨を理解し、参加することを承諾します。

平成28年 2月 _____日

ふりがな
お名前 _____

生年月日 明治・大正・昭和・平成 _____年 _____月 _____日

ご住所 武蔵野市 _____

電話番号 _____

●託児サービスを利用しますか。

①いいえ ・ ②はい ⇒ お子さまのお名前：^{ふりがな} _____ (男 ・ 女)
年齢： _____ 歳 _____ か月

●手話通訳等の配置が必要ですか。

①いいえ ・ ②はい (手話通訳・車いすの介助者)

※ 承諾書に記載された内容については、武蔵野市第五期長期計画・調整計画無作為抽出市民ワークショップの実施目的以外には使用いたしません。

(3) アンケート (参加者用)

参加者アンケート

本日はご参加いただき誠にありがとうございました。今後の参考とするため、ぜひアンケートにご協力ください。(該当する番号を○で囲んでください。)

1 ご自身について回答をお願いします。

(1)性 別 ①男性 ②女性

(2)年 齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代以上

(3)ご住所 ①吉祥寺東町 ②吉祥寺南町 ③御殿山 ④吉祥寺本町 ⑤吉祥寺北町 ⑥中町
⑦西久保 ⑧緑町 ⑨八幡町 ⑩関前 ⑪境 ⑫境南町 ⑬桜堤

(4)ご職業 ①会社員 ②公務員 ③自営業 ④パート・アルバイト
⑤専業主婦・主夫 ⑥学生 ⑦無職 ⑧その他 ()

(5)武蔵野市での居住年数 ①1年未満 ②1年以上5年未満 ③5年以上10年未満 ④10年以上

2 今回、参加をお決めいただいた理由は何ですか？(いくつでも)

- ① 前回参加して楽しかった、興味がわいたから。
- ② 市長から調整計画の紹介があったから。
- ③ 今回のテーマに興味があったから。
- ④ 長期計画・調整計画やその策定過程に興味があったから。
- ⑤ 市民として何か活動してみたいと思っていたから。
- ⑥ 報酬がよかった(魅力的だった)から。
- ⑦ 日ごろ感じていることについて他の市民と話してみたかった、意見を聞いてみたかったから。
- ⑧ 日程が合ったから。
- ⑨ その他 ()

3 参加された感想をお聞かせください。

- ① おもしろかった。楽しかった。
- ② おもしろくなかった。つまらなかった。
- ③ どちらでもない。
- ④ その他 ()

4 ワークショップに参加されて、どのようにお感じになりましたか？(いくつでも)

- ① 市政について関心が高まった。
- ② 第五期長期計画・調整計画について関心が高まった。
- ③ 話し合いのテーマについて関心が高まった。
- ④ 今まで知らなかった人(市民)と知り合うきっかけとなった。
- ⑤ 今後の武蔵野市について考える機会となった。
- ⑥ いろいろな市民がいて、いろいろな意見や考え方があったことがわかった。
- ⑦ 何も感じなかった。
- ⑧ その他 ()

⇒裏面に続きます

(裏面)

5 今後やってみたいと思う活動はありますか？(いくつでも)

- ① 第五期長期計画・調整計画を読みたい。
- ② 第五期長期計画・調整計画以外の様々な計画策定で意見を提出(パブリックコメント)したい。
- ③ タウンミーティングや市民会議に参加したい。
- ④ 特にやりたい活動はない。
- ⑤ その他()

6 テーマの話し合いの時間について。

- ① 適当 ② 長い ③ 短い ④ その他()

7 職員がテーブルに入ることについて、どのように感じましたか？。

- ① 良かった。
- ② どちらでもよい。
- ③ 入らないほうが良い。(理由:)

8 全体を通してスタッフの対応はどうでしたか。

- ① 満足できた。
- ② ふつう。
- ③ 満足できなかった。(不満に感じた点:)

9 今後、ワークショップのご案内が届いたら参加したいと思いますか？

- ① 参加したい。
- ② 参加したくない。
- ③ その他()

10 今後、ワークショップを開催するとしたら、どのようなテーマを希望しますか。

()

11 今回のワークショップの感想(興味を持たれたこと、印象に残ったこと、困ったところ、わかりづらかったところなど)を自由にご記入ください。

()

ご協力ありがとうございました。



(4) 見学のルール

ワークショップ見学のルール

1 見学の手続

ワークショップを見学しようとする人は、受付で住所および氏名を記入し、入室中は見学者名札を着用するものとします。

2 見学の定員

見学の定員は、原則として10人程度とし、事務局が会場の状況を考慮して決定します。

3 会場に入ることができない人

- (1) 銃器その他危険なものを所持している人
- (2) 酒気を帯びていると認められる人
- (3) 張り紙、ビラ、旗の類を所持している人
- (4) 笛、ラッパ、太鼓その他楽器の類を所持している人
- (5) 会議を妨害し、又は人に迷惑を及ぼすと認められる人

4 見学人の守るべき事項

- (1) 一切の発言はできませんので、あらかじめご了承ください。
- (2) 飲食又は喫煙はできません。
- (3) 写真、ビデオ等の撮影又は録音はできません。ただし、特に事務局の許可を得た場合を除きます。
- (4) ワークショップ開催中は、携帯電話の電源を切るか、マナーモードに設定してください。
- (5) その他ワークショップの運営に支障となる行為はしないでください。
- (6) 事務局の指示に従ってください。

5 その他

- (1) 入退室は、進行に支障のないように配慮してください。
- (2) 話し合いの支障となるような行為は厳に慎んでください。
- (3) 見学者は、事務局が会議の進行に支障があると判断した場合又は見学者がこのルールに定める事項に従わない場合で、事務局から退室の指示があったときは、直ちに退室しなければなりません。
- (4) お帰りの際には、見学者名札を事務局へご返却ください。

第五期長期計画・調整計画
市民ワークショップⅤ
(平成28年3月6日開催)
報告書

平成28年3月

発行 武蔵野市総合政策部企画調整課
〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2丁目2番28号
電話 0422-60-1801